

<運動方針の考え方と進め方>

1. 組織基盤の再確立と底上げ

(1) 組織体制の明確化と機能性の定着化

2023年8月のフォームズユニオン北海道（現、琴似分会）の組合組織設立、昨年の第49回定期大会においては旧フォームズユニオン東海（現、袋井支部・名古屋分会）との組織統合や本部・支部・分会体制の整備など、フォームズユニオンを構成する企業の変化に対応すべく組織改編を実施してきた。しかしながら、琴似分会の機能性や袋井支部の予算・組合費を含めた組合規約の未統合など課題は残されている。

従って、琴似分会においては引き続きの運営支援は行っていくものの、分会独自での組織機能性の発揮に努めていく。加えて袋井支部においては、予算を含めた組合規約の統一化を図っていく。

また、本部・支部・分会について、それぞれ組織における基盤固めと連携性の強化に努めていく。特に、本部機能の底上げを図っていく。

(2) 人材育成と組織機能の向上

労働組合は、企業運営はもとより働く従業員にとって非常に大切な役割を担っている。その様な中、不足傾向にある組合役員としての知識や行動力向上に向けた実践的な活動・行動による教育活動に取り組んでいく。また、決定された計画や取り組みが着実に実行され、組織全体の活性化と健全化に努めていく。

(3) 専門性を有した機構の活性化

組合員の身近な活動と組織活性化の原動力となる専門部（教育・広報・文厚・調査・財政）、若年層や女性を中心に組織形成している青年・女性委員会、各種取り組みへの基礎つくりと事前調整を行う場として設置している各種委員会について、ここ数年間の取り組み状況は低調にある。従って、各種の役割や重要性を学び直すと同時に、それぞれの機構のあり方について再認識していく。また、一部担当を見直しつつ、機構の活性化と求心力向上に向け取り組んでいく。

(4) 組合結成50年の節目と対応

フォームズユニオンは、組合結成50年を迎える。この50年間の歴史は非常に重く、そして大きな成果と実績を積み重ねてきた。一方では、組織の大きな変革が想定されている。

2026年度は、この50年を節目に、更には取り巻く環境を考慮しつつ、過去を振り返りながら将来の姿を描き、その検証に努めていく。

具体的には、組織や活動のあり方、有している機関や運営実態など、様々な内容について取り組んでいく。また、組合費や予算、積立金についても早急なる検証に努め、必要に応じた柔軟な対応とその規約改定を行っていく。

2. 組合員の安心追求とフォロー活動の推進

(1) 組合結成50年記念イベントの開催

労働組合の原点である「職場活動と組合員への対応」は、労働組合を組織する中においては基本的な考えである。また、組合員の「安心と安定」は、常に追求していかなければならない。この様な中、取り巻く環境の変化や組合結成50年という節目を重要視

し、全国の各支部・分会を起点とした記念イベントを実施していく。そして、フォームズユニオンの歴史を多くの組合員と祝うとともに新たな時代に向けた弾みとしていく。

(2) 組合員のサービス向上

組合員に最も身近な専門部活動やスケールメリットを活かした労働組合独自の福利厚生制度など、更なる斡旋と充実に向け取り組んでいく。そして、培った取り組みや活動に対し、再点検を行いつつ職場に根差した活動を基本に、労働組合の価値感を高めながら組合員のサービス向上に努めていく。

(3) コミュニケーション活動の強化

企業の活性化は、職場の活性化にある。昨今、取り巻く環境や労働環境に大きな変化が生じる中、個々の私生活や会社生活において多くの問題を抱えている組合員は少なくない。更には、企業の大きな変化に伴う仕組み変更への不満や業務負荷など、各職場からは多くの声が挙げられている。従って、労働組合としての組織力と役割を最大限に発揮すべく、組合員との対話活動に力を注いでいく。具体的には、職場巡回活動や世話役活動、そして職場集会などの日常的な職場活動に注力し、課題や問題点の吸い上げと、その解決に向け尽力していく。また、近年、低調に推移している全国対話活動については、運営にあたる課題や問題点を明確にし、取り組みの強化を図っていく。

以上、過去から培った基本的な取り組みの強化により、職場内や個々が抱える問題点の把握と改善、更には企業・組合組織の現状などについて、情報連携と建設的なコミュニケーション活動に努めていく。そして、組合員が「安心して働く環境『感』」を、更に高めていく。

(4) 安全衛生への取り組み

安全・衛生とは、労働者が安心して働く環境を確保し、労働災害や職業病を防ぐための取り組みである。そして、健康と安全は、企業運営上の絶対条件である。この様な環境改善への取り組みとして、組合独自による安全衛生に関する研修会を開催し、職場の環境改善に向けた取り組みの強化を図っていく。また、一部、形骸化が懸念される安全衛生活動の総点検を実施し、労働組合としての役割を発揮した安全衛生活動に取り組んでいく。一方、新たな取り組みとして、事業所内労使を飛び越えた中で、新鮮な目線と緊張感を保ちながらの職場巡回と点検活動に着手していく。

3. 労使関係と労働環境改善への取り組み

(1) 労働諸条件改善への取り組み

企業の生産性向上と発展は、我々の生活の源泉である賃金や働く環境の大前提にある。また、雇用や賃金を始めとする労働諸条件の原資は、労使の努力による生産性向上の増分付加価値で賄われるべきである。従って、生産性三原則「1. 雇用の維持・拡大、2. 労使の協力と協議、3. 成果の公正な分配」を基本に生活の支えである給与と一時金、そして労働環境の維持・改善に取り組んでいく。一方で、企業は大きな変革途上にある。この様な環境下、年末一時金や春闘への取り組み、その他労使関係について、大きな変革期を迎えていることも事実である。また、フォームズユニオンを構成する企業も大きな変化を遂げ、企業毎による独自性が強まっている。この様な環境下、メリットと成果に結びつく手法を慎重に吟味し対応を図っていく。また、企業の変化を考慮し、組織内の機構を最大限発揮すべく「本部毎」の取り組みを重要視していく。

(2) 効果的な労使専門委員会の構築と充実

企業の変化や春季生活闘争からの継続課題、日常における企業運営など、労使が真摯に向き合い専門的に議論する場が必要不可欠である。また、新たな仕組みつくりなど、多くの課題や問題点が山積している。

その様な中、企業変革への対応や日常における課題や問題点の共有と解決、そして労使交渉に向かうにあたっての事前協議の場として、労使専門委員会の役割は非常に重要である。従って、新たな組合組織を考慮した中で、労使専門委員会を再構築し、様々な課題に対して取り組んでいく。

(3) 事業所労使関係の充実

労働組合の原点である職場活動、そして組合員のフォロー活動を推進していく上で、各事業所を中心とする労使による協議会や懇談会の役割は非常に大切である。また、健全な事業運営に対し最も重要である労働基準法や労働協約の遵守などは、各職場における労使の意識と取り組みが重要視される。しかしながら、近年の状況を見るに一部の事業所において、その役割は低迷している感が伺える。従って、協議会、懇談会の定例化と質の向上、加えて緊張感を保ちながらの労使関係の再構築に努めていく。更には、労使間での連携を向上させながら、健全な事業運営のもと働きやすい職場環境と生産性の向上を目指す。

(4) 労使事務局機能の充実

労使関係は、労使双方の信頼が最も重要で、労使関係の根幹をなすものは、労使事務局機能である。労使事務局機能は、事前調整や情報連携の場として重要な機能を有しているが、近年の状況を検証するに希薄化は否めない。従って、事務局機能の再認識と事務局案件の精査を行うことで、充実した内容と役割の明確化を図り機能性を高めていく。

4. 対外活動と社会的な取り組みの推進

(1) フォームズユニオン連合会への対応

フォームズユニオン連合会は、旧フォームズグループに存在する労働組合で構成するが、その構成企業が大きな変革を遂げており、フォームズユニオン連合会の将来について、議論を要する状況にある。この様な中、フォームズユニオンが引き続きの中核組織となり、フォームズユニオン連合会の運動方針を着実に遂行していく。

(2) 印刷労連への対応

産業別労働組合の役割は、産業の発展と社会的・経済的地位の向上を目指し、そこで働く者の労働諸条件の改善に努めていくことである。フォームズユニオンは、印刷労連の中核組織として役員を派遣するとともに、その責任を果たしていく。そして、印刷労連の運動方針に基づき各種活動を展開していく。一方、印刷労連内に存在する全国の地方協議会活動へは、支部ならびに分会より役員を派遣し、情報連携や組合員により密接度が高い地域内での活動に取り組んでいく。また、印刷労連全体を見据えた中において、地方協議会体制のあり方や運営など、印刷労連全体に対し将来に向けた提言を行っていく。

(3) 連合活動への対応

日本における労働組合の中心的組織「連合」は、国や地域に携わる社会的な大きな課題に対し、積極的に取り組んでいる。引き続き、上部団体である印刷労連を通じて、フォームズユニオンが存在する各地域へ役員を派遣し、社会的な活動に取り組んでいく。一方、フォームズユニオンは、生活と働く安心・安定を常に求めている。しかしながら、企業内での取り組みや解決には限界がある。よって、連合などの大きな組織との連携により、生活と働く安心・安定を更に追求し、社会の一員としての責任を果たしていく。

(4) 友誼組織・友好労組との連携

友誼組織や友好労組との連携は、フォームズユニオンの組織基盤の強化や組織の成長を目指す上において重要な取り組みとなっている。また、様々な活動や研修会への参画など、人材育成においても有効的な実績を積み重ねてきた。よって、過去からの取り組みを尊重し、各種機関や団体に対し、引き続きの連携を図っていく。一方、過去より大きな成果として取り組んできた日本生産性本部主催による海外洋上研修について、地政学的リスクや新型コロナといった環境のもと派遣を断念してきた。しかしながら、昨今の状況は改善され、ここ数年間の中でその研修も盛んに開催されている。従って、過去の実績をもとに役員の派遣を再開していく。